

2016年11月16日

今シーズン雪はどのくらい降る？ウェザーニューズ、降雪傾向を発表
ラニーニャ現象の影響で、今冬の雪は平年並～多い予想
～各地のゲレンデは良質な新雪に期待も、年末年始に予想される大雪には各地注意～

株式会社ウェザーニューズ(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:草開千仁)は、今冬の降雪傾向を発表しました。今シーズンは、弱いながらもラニーニャ現象の影響で、寒気の流れ込みは平年並か強く、気温は平年並か平年より低い日が多くなりそうです。各地の降雪量は平年並の所が多く、山陰ではやや多くなる予想で、雪のピークは12月後半～年末年始と1月末、そして2月後半～3月初めとなりそうです。年末年始は、日本海側で大雪となり、濃尾平野や京阪神、瀬戸内でも積雪の可能性あります。帰省の交通機関に影響が出る恐れもあるため、今後の最新情報をご確認ください。また、関東の平野部では1月中旬～下旬に積雪のリスクが高まる予想です。昨シーズンは雪が少なく、ゲレンデは雪不足となりましたが、今シーズンはその心配はなく良質な新雪でスキーやスノボが楽しめそうです。

降雪傾向の情報はこちら

ウェブ版プレスリリース
<https://jp.weathernews.com/news/14651/>

ウェザーニューズウェブサイト「雪見解」
<http://weathernews.jp/s/topics/201611/150145/>

◆今冬の降雪傾向(12～3月)

◇降雪量は平年並～多い予想、ピークは12月後半～年末年始と1月末、2月後半～3月初め

今シーズンは、弱いながらもラニーニャ現象の影響で、平年と比べて強めにシベリア高気圧が張り出すため、寒気の流れ込みが平年並か平年より強くなって、各地の気温は平年並か平年より低い日が多くなります。ラニーニャ現象の時は、西日本にも強い寒気の流れ込みやすくなる特徴があります。このため、各地の降雪量は山陰ではやや多く、その他のエリアは平年並の予想です。雪のピークは、12月後半～年末年始と1月末、そして2月後半～3月初めの予想で、日本海側を中心に大雪に注意が必要です。



◇年末年始は大雪の恐れ、帰省の交通機関への影響に注意

年末年始は強い寒気が南下し、北～西日本の日本海側で大雪となる恐れがあります。また、濃尾平野や京阪神、瀬戸内でも雪が降って、積雪の可能性あります。帰省の交通機関に大きな影響が出る恐れもあるため、今後の最新情報をご確認ください。

◇1月中旬～下旬は南岸低気圧により関東の平野部でも積雪リスク高

関東の平野部で積雪リスクが高まるのは1月中旬～下旬です。この時期に、冬型の気圧配置が弱まるタイミングで日本の南岸を低気圧が通過すると、関東南部の平野部でも雪が降り、積雪の恐れがあります。

◇ゲレンデは雪が豊富に、良質な新雪に期待！

昨シーズンは雪が少なく、ゲレンデは雪不足となってオープンが遅れた所がありましたが、今シーズンはその心配はなく、良質な新雪でスキーやスノーボードが楽しめそうです。

◆エリアごとの降雪傾向

エリア	シーズン 本格化 時期	降雪の ピーク 時期	降雪量	降雪傾向
北海道	11月末～	・12月後半 ～年末年始 ・2月後半～ 3月初め	平年並	◇年末年始は暴風雪・大雪の恐れ、帰省の交通機関への影響に注意 12月は、低気圧や寒気の影響で日本海側では雪の降る日が多くなります。年末年始は暴風雪や大雪となる日があり、積雪が増加する予想です。1月～2月前半は、冬型の気圧配置となる日が多く、日本海側ほど雪の日が多くなります。また時々低気圧が発達しながら通過し、太平洋側でも風雪の強まる日がありそうです。2月後半～3月初めは、低気圧が通過してその後に寒気が流れ込むサイクルとなります。このため日本海側では風雪が強まって積雪が増加し、太平洋側でも雪の降る日が増える予想です。3月後半になると寒気の流れ込みが弱まり、4月に入ると雪解けが進みそうです。
東北	12月上旬 後半～	・12月後半 ～年末年始 ・2月後半～ 3月初め	平年並	◇年末年始は暴風雪・大雪の恐れ、帰省の交通機関への影響に注意 12月は、低気圧や寒気の影響で日本海側では雪の降る日が多くなります。年末年始は暴風雪や大雪となる日があり、積雪が増加する予想です。1月～2月前半は、冬型の気圧配置となる日が多く、日本海側ほど雪の日が多くなります。また時々低気圧が発達しながら通過し、太平洋側でも風雪の強まる日がありそうです。2月後半～3月初めは、低気圧が通過してその後に寒気が流れ込むサイクルとなります。このため日本海側では風雪が強まって積雪が増加し、太平洋側でも雪の降る日が増える予想です。3月後半になると寒気の流れ込みが弱まり、3月下旬以降は雪解けが進みそうです。
関東・山梨 県・長野県 中南部	12月中旬 ～	・12月後半 ～年末年始 ・1月末 ・2月後半～ 3月初め	平年並	◇関東の平野部は1月中旬～下旬に積雪リスク高 12月は、山間部で次第に雪の日が増え、中旬から積雪も増加する予想です。特に12月後半～年末年始は強い寒気が到来し、山間部では積雪が増加しそうです。1月～2月前半は、寒気の流れ込みが強い時期と弱い時期があり、山間部の積雪は維持またはやや増加の予想です。また、1月中旬～下旬は南岸低気圧が通過して、関東の平野部でも雪が降り、積もる日もありそうです。2月後半～3月初めは、再び寒気が流れ込みやすくなり、山間部の積雪は増加します。3月下旬になると、暖かな空気が流れ込むようになり、山間部で少しずつ雪解けが進みそうです。山間部の雪のピークは、12月後半～年末年始、2月後半～3月初めの予想です。

北陸・東海・ 長野県北部	12月中旬 ～	・12月後半 ～年末年始 ・1月末 ・2月後半～ 3月初め	平年並	<p>◇年末年始は北陸で大雪・吹雪に注意、東海西部でも雪の可能性</p> <p>12月前半は、低気圧や寒気の影響で、日本海側の山沿いで雪の日が増えそうです。12月後半～年末年始は強い寒気が到来し、北陸や岐阜県飛騨、長野県北部では大雪となり、濃尾平野など東海西部の平野部でも雪となる日がある予想です。1月～2月前半は、寒気の流れ込みが強い時期と弱い時期があり、北陸や岐阜県飛騨、長野県北部の積雪は維持か増加の予想です。寒気が強まると、東海西部の平野部でも雪の積もる日がありそうです。2月後半～3月初めは、時々強い寒気の流れ込み、日本海側では再び積雪が増加する予想です。3月下旬になると寒気の流れ込みは弱まり、少しずつ雪解けが進みそうです。</p>
近畿・中国・ 四国・九州	12月後半 ～	・年末年始	日本海側平 年並～やや 多い／太平 洋側平年並	<p>◇年末年始は日本海側で大雪、瀬戸内・京阪神でも雪の可能性</p> <p>12月前半は、寒気の影響で、日本海側の山沿いでは次第に雪の日が増えていきます。12月後半～年末年始は強い寒気が到来し、日本海側では大雪、瀬戸内や京阪神でも雪の可能性があります。1月～2月前半は、寒気の流れ込みが強い時期と弱い時期があり、日本海側の積雪は維持か増加の予想です。2月後半～3月初めは、時々強い寒気の流れ込み、日本海側では積雪が増加しそうです。3月後半になると寒気の流れ込みは弱まり、雪解けが進みます。今冬は西日本にも強い寒気の流れ込みやすく、山陰の降雪量は平年よりやや多くなる予想です。</p>

◆今冬の降雪傾向について

当社では、日々、長期気象予測サービスの実用化に向けて取り組みをおこなっていますが、現在の気象予測の技術水準では、予測精度の誤差が大きくなる場合があります。今回の降雪傾向発表にあたり、複数の気象機関や長期予報の有識者からの見通しを元に、総合的に見解を出しています。本リリースにおける情報につきましては、発表日(11月16日)における最新の見解になります。